８月の死刑執行

再審請求を阻むもの

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

滝実法務大臣は就任２ヵ月にして、２名の死刑を執行しました。

執行後、滝法相は、「２人は再審請求をしておらず、冤罪の危険性がなかった」と述べています。

★☆★

「外部交通が厳しすぎて手紙や面会したい人と全く交流が持てず再審支援者が亡くなったのにもかかわらず、新しい再審支援者の外部交通も許可してもらえず、再審の邪魔ばかりしている。」

これは、東京拘置所で執行された服部純也さん（40）が、国会議員宛てに記したものです。彼は、再審請求をしていなかったのではなく、したかったのにできなかったのです。彼の一審判決は無期懲役でした。再審によって死刑が回避される可能性はなかったのでしょうか。

★☆★

「『自らの死を覚悟して起こした事件』なので……実質控訴しませんでしたが……私の話は一切聞かない、私が何故今回の事件を起こしたかについて検察官も裁判官も全く興味を持たず、『強盗殺人罪には死刑か無期懲役しかありませんね～。２件となると死刑が相場ですね～』……という、いわば単なる「量刑」裁判でした。今振り返ってみて、とても悔しいです。」

これは、大阪拘置所で執行された松村恭造さん（31）が記したものです。彼は控訴を取り下げて確定したのですが、決して裁判に納得していたわけではありません。

「殺人」を犯したことが事実であったとしても、その事情によっては、様々な減刑の可能性があります。

★☆★

８月８日、以前から決まっていた死刑廃止を訴える諸団体との面談の場で、滝大臣は「私も昔は死刑廃止だった」と述懐したそうです。その後、なぜ意見を変えたのか詳しくは語りませんでしたが、この国の政治権力は政治家の理想を実現していくものではなく、逆に理想を押しつぶしているかのようです。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

［おしらせ］

死刑執行に抗議する緊急・院内集会

８月27日（月曜）午後６時～
衆議院第二議員会館 Ｂ１Ｆ第５会議室
千代田線・丸ノ内線「国会議事堂前」下車５分
第二議員会館１Ｆ入口で通行証をお渡しします。